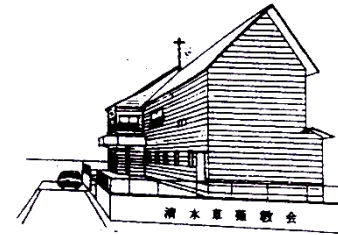


≪祈禱会の聖書箇所から≫先週の祈禱会では創世記26:15～25が開かれました。この箇所に関しては、新共同訳聖書が良いと思います。ヘブライ語の地名などに意味が括弧の中に付けられているためです。このころイスラエルの地域には沢山の勢力がありました。一方沢山の羊を養うには、広い草地が必要とされます。沢山の民族が比較的狭い地域に住んでいたわけですから、過密な状況にあったわけですから。アブラハムの掘った井戸を全部ペリシテ人ははふさいでしまいました(15節)。妨害をしたこととなります。ここにアビメレクの勢力がありました。そしてこの王はイサクほどには大きな勢力になっていませんでしたが。“近くにいると争いになるから、どこかに行ってくれないか(16節)”と提案します。ずいぶんむしのいい話のようにも取れます。イサクは、この貴重な土地を離れ、ゲラルの谷に住むこととなります(17節)。そうすると、もともとゲラルにいた羊飼いと争いがおき“この水はもともとわれわれのものだ(20節)”と言いました。このようなことを繰り返して、やがて、レホボト(広い場所)という井戸の名前が付けられるところまでやってきました。ここでは争いをおきませんでした。広い場所だったから、争って草や水を奪い合うことがなかったからです。このようにしてイサクは争いを回避しました。私たちも、狭い場所や、小さな事柄をめぐっての争いを経験します。そして奪い合いになってしまうことも経験します。避けたいと思いつつ、悩みの種のようになってしまふことがよくあります。しかしイサクは、強い勢力の長でしたが、押さえつけることをしないで、新天地を選んでいきました。神様はこのことをとてもよいこととされ、場所を与えられたのは神様です。そして、“おそれてはいけない、わたしはあなたと共にいる”と語りかけられます(24節)。旧約聖書の大きなメッセージの一つがここで語りかけられているのです。私たちも、神様が示してくださる大きな選択をした時、何回も祭壇を築き、主の名を呼んだのではないのでしょうか(25節)。避けるということが、神様にとって、敗北ではなく、勝利だったのです。イサクも大きなものを獲得し、それが主の導きであることを覚えていたのです。避けることが大きな恵への近道である“時もある”のではないのでしょうか。

週報

2008年 9月 14日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885
 静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26
 ☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp